

はしがき

2023年11月11日～12日に同志社大学において開催予定の第167回大会予稿集をお届けします。今大会も専修大学における前大会に続き対面で開催することになりました。まだまだコロナ感染が終息したわけではありませんから、感染予防に最大限注意しながらの開催となります。色々と気を遣う大会運営に全力を尽くしていただいている大会運営委員会および大会実行委員会のみなさん（特に松浦年男大会運営委員長と沈力大会実行委員長）に心よりお礼を申し上げます。

前大会に続き今大会も、発表応募時に「口頭発表」と「ポスター発表」について第1希望と第2希望を選べるようになりました。また、今大会から（事前申請すれば）オンラインでの発表も可能になっています。応募件数としては、口頭発表第1希望が67件、ポスター発表第1希望が17件、そしてワークショップには4件の応募があり（総数88件）、うち67件が採用されました（内訳：口頭発表20件、ポスター発表43件、ワークショップ4件）。今までの大会同様、様々な言語（あるいは言語一般）を対象とする、極めて多様なアプローチによる研究発表が予定されています。

大会2日目（11月12日）に行なわれるのは、同志社大学の沈力氏の企画・司会による公開シンポジウム「語」とは何か？ — その多面性を探る」です。「(単)語 (word)」という言葉は広く使われていますが、この概念を正確に定義することはそれほど簡単ではなく、様々な言語特性（音韻的緊密性、形態的緊密性、意味的緊密性、統辞的特徴、類型論的特徴、等）を慎重に考慮しなければなりません。「語は形態論と統語論 (syntax) とのインターフェイスである」とも簡単には言えないのです (syntax (統辞法) の操作は「語」内部にも適用される)。本公開シンポジウムは、「語」概念の多面性を言語類型論、語彙意味論、音韻論等の様々な観点から探っていく刺激的なものになると思います。

今回も最大限の感染対策をしながらの開催になります。まだまだ油断が出来ない状況ですが、可能であれば、どうか充分にご注意されながら参加者交流会などにもご参加ください。なお、参加登録をされた方は、当日参加だけでなく、後日配信予定の研究発表、ポスター資料の視聴とフォームを用いた質問も出来るようになっています。

最後になりましたが、今大会も事前の参加登録と参加費の支払いを奨励しています。（当日のご登録も可能です。）どうかご登録をよろしくお願いいたします。

2023年11月

日本言語学会 会長 福井直樹